

1月麻績村教育委員会定例会議 会議録

令和7年1月8日(水)

午前9時30分～

地域交流センター第3・4研修室

出席委員 職務代理 小山正文 委員 高野羊子

委員 坂口曜子 委員 小松小百合

出席職員 麻績保育園長 塚原京子 麻績小学校長 伊藤尊夫

筑北中学校長 白井伸明 教育長 加瀬浩明

次長 宮下信俊 係長 白井太津男 主任 高野智弘

一 開会(宮下教育次長)

令和7年1月の麻績村教育委員会定例会を始めます。よろしくお願ひいたします。

二 教育長挨拶(加瀬教育長)

教育長：皆さんおはようございます。本年もよろしくお願いします。これで学校が始まる状況になってまいりました。我々も年度末のまとめというところで備えていきたいと思います。ご協力よろしくお願いします。

それでは1月の定例教育委員会を始めさせていただきます。

三 報告

1) 教育長報告

宮下次長：報告事項に移ります。教育長報告をお願いします。

教育長：役場の仕事始め式において村長から、教育全般に関わっての話がありました。教育環境について必要な整備は行っていくということでありました。何か要望があれば大小に関わらず出してください。村長もそういう気持ちでいます。必要な整備は確実にやっていくことになりました。そのように対応していきたいと思います。

それから学力向上や、ICT教育についても推進していくかなければならないが、併せて地域との関わりを大事にした教育をしてもらいたいということでありました。スマホとかゲームだけではなく、具体的に言えば、おみっこ元気くらぶのような活動を教育委員会として盛んに取り組ん

でいただければという話がありました。村長が直接そう言ったわけではありませんが、この活動の裏には、コミュニティスクールをうまく運営し、活用していってほしいという願いがあると思います。

新しい年となりました。新年度の活動を推進していかなければならぬと思います。次長を中心となっていただいて、具体的な推進計画等を示していきたいと思っています。よろしくお願ひします。

市町村教委の連絡会が明日行われるため、県の伝達事項など本日示すことができません。12月も会がなかったので11月の伝達事項の再掲となります。よろしくお願ひいたします。

それから全国的にインフルエンザが流行りそうな状況になっております。感染予防に関して十分対策をお願いしたいと思います。

寒い時期でありますので、施設の管理それから先生方職員の皆さんの交通事故等も含めて事故の防止に配慮していただきたいと思います。道路の路面凍結それから濡れているところを歩いた靴で校舎内の廊下が濡れるなどして滑ることがありますので、十分注意していただきたいと思います。

中学校では進路の決定が本格的になってきます。小中学校において成績物等の管理には十分注意していただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

いよいよ年度末が近づいてまいりますが、不登校傾向にある子供たちについて丁寧に対応をお願いします。なかなか繋がりが取れなかったりコンタクトが難しかったりする場合には、遠慮なく教育委員会へ相談してください。役場の違う課と相談しながら全体で進めていきたいと思います。

明日の市町村の連絡会で何か急なことがあったり連絡しなければならないことがあったりした場合は、書面あるいは口頭で連絡をさせていただきます。

1月の予定でありますけれども、11日に消防の出初式がございます。多くが12日あたりに各地区のどんど焼きが実施をされるかと思います。それから21日にセイコーエプソンから環境教育用ノートの贈呈式があります。26日が文化財の防火デーとなっています。麻績村では3月16日に福満寺で訓練を実施します。27日は子供議会の予定であります。1月もいろいろなことがありますけれども先ほど申し上げた通り、インフルエンザなど十分気をつけていただいて乗り切れればと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。以上です。

宮下次長：只今の報告についてご意見等ございましたらお願ひします。続いて子

育て支援コーディネーター報告に移ります。

2) 子育て支援コーディネーター・保育園長・学校長報告

高野 C.O.：（以下、資料に沿って説明）。

宮下次長： それでは続いて保育園長報告に移ります。

塚原園長：（以下、資料に沿って説明）。

宮下次長： それでは続いて小学校長報告に移ります。

伊藤校長：（以下、資料に沿って説明）。

宮下次長： それでは続いて中学校長報告に移ります。

臼井校長：（以下、資料に沿って説明）。

宮下次長： それぞれからご報告いただきましたが、委員の皆様からご質問等ありますか。

小山職務代理： 放課後児童クラブの支援員が一名退職されたということですが、支援体制についてはいかがですか。

宮下次長： もともと二名体制でしたが、今年度から長期休業中の対応として三名体制で行ってきました。これでまた二名体制となるので、長期休業中については考えていかなければなりません。

小山職務代理： 来年度については支援員を増やすことは考えていませんか。

宮下次長： 取り敢えずは二名体制を考えています。長期については、教育委員会スタッフで対応しようかと考えています。私個人の構想ですが、ひだまりスタッフが保育士資格を持っているので、さらに安心な支援ができるのかなと考えています。

坂口委員： 登下校のバスについてお願いします。朝のバス乗車が増えているときがあります。冬になると滑りやすくなるので、安全な乗車の仕方につい

て子供たちに伝えていただけると良いかと思います。

宮下次長： 路線バスのためシートベルトの着用には至っていなかったのですが、小さい子供たちが乗車しているので、シートベルトの着用をするようにと運航会社から言われています。保育園、小学校児童の乗車にはシートベルト着用の方向になってきています。安全運航のための改善が行われているように感じます。補足させていただきました。

坂口委員： 小学生同士だと座ることができるので、知らない人の横に座るのはかなり抵抗があるようです。

小松委員： 中学卒業後の追跡についてお願いします。見守っていく必要はあると思います。どのように成長しているか知ることは大事だと思います。出来れば追跡調査は必要かと思います。

臼井係長： 私立学校に通う子供に対して私学助成補助ということで一名あたり、年間 2 万円の補助を行っています。私学の所はそこで把握することができています。公立学校に通う子についても令和 4 年度から高校生の通学補助を行っています。高校に通っている各家庭から申請をあげてもらって補助に繋げていました。このようなところから把握できたところもあります。

中学卒業後に家居の子がいます。こちらにつきましては直接相談に上がっていますが、筑北シャインカレッジに繋がっています。私立学校に進学した子が、1 年生の 10 月で休学になっています。今年度においても、休学が継続中となっています。

やはり直接親御さんから支援の申し出がないので、なかなかこちらから立入っていくことができないという状況であります。

それからもう一名私立学校に通っていた子が学校を途中で退学して、今は通信制の学校に通っている子がいます。そういう形での把握はこちらではできています。

0 歳から 18 歳という部分の教育委員会の見守りというのはありますが、やはり住民課の児童福祉の関係は切り離せないのかなと思います。

教育委員会として支援が必要かと思っているのは二名であります。

臼井校長： 今の話の中で、家庭にアプローチができない状況があって、やはりこのところを切り開いていかないと、そのままずっと 20 年後 30 年後に行く可能性はあると思います。何か繋がりを作っていくことがポイントかなと思います。

白井係長： 最終的にそれを担うのは、こども家庭センターだと思います。しかし、まだ実質的な整備になっていないという状況であります。

坂口委員： 親としては、中学卒業後に困ったら行政に相談していいかもわからぬいのではないかと思います。自分だったらどこに相談したらいいか分かりません。

白井係長： そのためのこども家庭センターの窓口でもあるので、周知していかなければならぬと思っています。

白井校長： 子供たちを 18 年間見守るためのデータベースにできない体制はどうかと思います。一人ひとりを誰かが見て行ける仕組みが必要かと思います。20 年 30 年後を考えると寂しい気がします。

宮下次長： こども家庭センターが名ばかりではなくて、実態のあるものにしていかなければならぬと思います。教育委員会側だけではとても入りきれない部分もあります。他の自治体の状況を聞くと、山形村は住民福祉を作ろうかと考えているようです。生坂村については、こどもセンターがあつて保健師もいるようです。我々も昨年住民課と議論をしていましたのですが、なかなか計画通りに進んでいない状況です。このあたりを具体なものにしていかなければなりません。ご意見を聞きながら保護者や子どもたちにとって良いものにしていきたいと思います。

四 報告・協議事項

(1) 全国学力・学習状況調査の結果公表について（広報 1 月掲載）

白井係長： 全国学力・学習状況調査の広報の掲載記事についてご説明させていただきます。全国学力調査の結果につきましては、ここ数年広報の 1 月に掲載しております。村民の方に現在の児童生徒の学習の考え方や、状況などについて周知させていただいております。掲載記事につきましては、各小学校中学校にお願いをして出していただきました。

まず学力調査の国語につきましては、今年度中学校では傾向として小学校とは逆な結果となっています。小学生では読むことが全国平均を上回ってますけれども、中学生では下回りました。言葉の特徴や使い方については、小学校では全国平均をやや下回っておりますが、中学校では全国を上回りました。算数・数学については、データの活用については全国的に上回っていました。数や計算等は下回るというような小中学校とも同様な傾向を示していました。

ただ学力調査の結果につきましては、平均の母数となる児童生徒数が少ないということもありまして、一概に全国平均と比べることはできません。記事に掲載するときには全体的な傾向ということで出てしまします。

次に学習状況調査については、小中学校ともに家庭を含めた学習時間は全国平均と比べてやや少ないという結果となっています。この部分につきましても、ほぼ例年と同じような結果となっています。中学校については、テレビゲームや SNS 動画視聴の時間が全国平均を上回っているというわけではありません。学習時間の少なさがテレビあるいは SNS に影響されているわけではないような結果となっています。通学距離に伴う通学時間の長さというのが影響しているのかなと感じるところでございます。

小学校において家庭での読書あるいは新聞を読む機会が全国平均を大きく下回っているということが出ています。こちらについてはある程度の危機感もあるわけですが、新聞をとっている家庭が非常に少なくなっています。仕方のないことかと思います。

友達関係、あるいは自己肯定感が高い傾向は近年続いております。中学校においては、先生との関係も良好で、教職員が生徒の様子を把握出来ていることが結果として表れています。少人数の良さがうかがわれます。平成の終わりぐらいの結果では、なかなか自己肯定感が上がっていないという結果でした。しかし、最近の調査では非常に上回っているというような結果が出てきていることは非常に喜ばしいことではないかと思っております。

(2) 要保護児童生徒援助費補助金（就学援助費）について

宮下次長： 保護者から小中学校宛に就学援助費増額の要望が手紙として出されました。

学校での学習にかかわって家庭から負担してもらっている費用について、経済的理由により、就学困難と認められる学齢児童生徒の保護者に対して支援する制度になってます。援助費については毎年国で基準単価を定めておりまして、その単価に沿って村では支給しています。

東筑管内の状況を調べました。取り纏めたものが資料 10 ページになります。文科省では基準単価はあくまで基準であって、上限額を決めるものではないと記載がありました。

東筑管内で上限以上に出してるところがあればと思って調べてみました。そうすると、麻績村では国の基準単価に沿って援助していることが分かりました。他の 5 村と比べても麻績は手厚く援助していることが

一覧にして把握することができました。

見劣りする部分があれば、保護者の意向に沿ってと考えていたところですが、このような結果をお伝えしようかと思います。何かご意見等あればよろしくお願ひします。

白井校長: 修学旅行費についてはバス代を出してもらっています。就学援助費以外に村から全員に補助が出ていますよね。

教育長: よろしいでしょうか。それでは丁寧に説明をお願いします。

(3) スクールパートナーズ（コミュニティースクール）について

宮下次長: 昨年度に小中学校一体となったスクールパートナーズと銘打ってスタートしたコミュニティスクールですが、現状ボランティアを募ったままほったらかしになっていた経緯がありました。そのあたりを反省しながら 12 月 23 日に、ボランティア登録をいただいた皆様全員にご案内をして、全体会議を行ったところであります。

登録いただけた 33 名のうち 18 名が当日参加しました。小中学校の校長先生、教頭先生にもご参加をいただきました。今までの経過の説明と、今後に向けての打ち合わせを行いました。

今まででは小学校中学校それぞれに組織されていて、教頭先生などのご尽力があって、運営が行われていました。昨年度から小中学校一体型となって、実際に学校から運営の母体が事務局は公民館に移ったところであります。しかし、動けるだけの運営組織になっていなかった点が課題として残っていました。

その課題を洗い出しながら、今年度中に運営委員会を開催して、来年度の活動計画に繋げられるようにします。以上です。

教育長: 新年度からの具体的なスタートとなります。学校からも要望を出していただいて、うまくコーディネートできればと思います。

白井校長: 誰が窓口となるのか示していただくようお願いします。来年度のスクールパートナーズのボランティア見込を教頭先生に示してください。また年間の流れのようなものも併せて示してください。

伊藤校長: コーディネーターの役割が重要です。担任が何かやりたいといった時に、今年度は担任や教頭先生、教務主任の先生、養護の先生、栄養士

の先生が動いてきました。理想的にコミュニティスクールが動いていて、コーディネーターの方が、担任の思いを聞いて、関係するところに繋いでもらえるとすごく有難いです。

宮下次長: 学校側にコーディネーターがいて、社会教育側にもコーディネーターがいて連携が取れると非常に動きやすいという教育長からの話でした。なので学校にコーディネーターがいると、先生方もすぐに頼れるのかと思います。

教育長: いずれにしても、この麻績村で機能していくコミュニティスクールにしなければいけません。人材等も含めて準備委員会で練っていただきたいと思います。そこから徐々に進め、新年度に間に合うように準備できればと思います。

五 その他

1) 各委員から

教育長: 委員の皆様から何かございましたらお願ひします。
よろしいでしょうか。

高野委員: 中学校卒業後のフォローの件についてお願ひします。家庭へのアプローチについては、外部の専門家にお願いするのが良いかと思います。なかなか家庭に入り込むのは難しいと感じます。

私も教育委員として動けることがあれば動いていきたいと思います。スクールパートナーについても職員だけに任せるのでなく、少しでも力になることあれば動いていきたいです。

小山職務代理: 先ほどの家庭学習の話で、家庭において新聞を読む機会が少ないということでした。今では新聞をとっていない家庭が多いようです。家庭の中でニュースに触れる機会が増えてくるといいと思います。

2) 事務局から

教育長: 事務局より連絡事項お願いします。よろしいでしょうか。

宮下次長: 児童クラブの職員が1名退職しました。また中学校の調理員1名も退職予定になっています。それに伴って代替要員を2名確保しております。また、他に調理員さんの情報があればよろしくお願ひします。3学期に

については代替さんで対応していきます。

臼井係長: 山雅ホームタウン事業についてお願ひします。シーズン終了後にシーズン報告会を行っています。今年については、報告会の後に子供たちとの交流ができないかなとお願ひをしたところ、小学校4年生が交流することができました。市民タイムスにも大きく取り上げていただきました。

教室では選手チャントを子供たちが歌い、ディフェンダーの野々村選手がとても感動していました。子供たちは選手にいろいろな質問をすることができました。担任の思いとして、もう少しキャリア教育の部分で話をしてもらいたかったようです。

山雅では緑化運動を毎年実施しています。麻績村では毎年40名近い参加者があります。山雅スタッフとしては麻績村ではとても応援してもらっていると感じているとのことです。

2月下旬から新シーズンが始まります。3月9日の宮崎戦を交流センター大ホールにてパブリックビューイングの計画があります。元選手でホームタウン担当の片山さんに来ていただく予定になっています。教育委員会としても、子供たちに何か特別なことができればと思います。

昨年6月に保小中でピアノとバイオリンコンサートを行いました。来年度も予算計上し実施できるようにしています。今回はピアノとトランペットを予定しています。時期については学校それから演者と調整していきます。村民コンサートも併せてできればと考えて予算計上しています。トランペットなので麻績消防ラッパと共に演できたら面白いと考えています。以上です。

3) 次回予定

次の定例教育委員会の日程 2月4日(火) 午前9:30~

六 閉会

教育長: 以上をもちまして1月の定例教育委員会を閉じます。